

◆推薦します―



山本卓眞  
(偕行社会長)

今後の陸軍の制度研究に大きく裨益する出版

この度、松本先生及び関係者のご努力により、『陸軍成規類聚』資料集成」が出版されることは、帝国陸軍に籍を置いた者として非常に喜ばしいことであると思います。  
「帝国陸軍」は終戦時における兵力五四七万人といわれ、直接間接に軍と関係した軍需産業その他の人員を含めると、その規模の大きさは正に想像以上のものがあります。軍隊と言ふ、とかく作戦・戦闘に関心が集まるのが常ですが、この日本史上空前の大組織を造成・維持・管理する機能は軍制であり、その基本となった法令規則がこの「陸軍成規類聚」に収録される規則体系であります。  
今回、昭和・九年度版及び別冊のみならず、その沿革を示す明治期の資料が復刻され、更に陸軍における軍制の第一人者である山崎正男氏の「陸軍軍制史梗概」及び「偕行」誌に掲載された一連の記事が復刻・出版されることは、今後の陸軍の制度研究に大きく裨益するものと信じます。  
松本先生は関係者のご努力に感謝し推薦の言葉とさせていただきます。

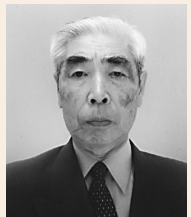


宮崎繁樹

(明治大学元総長・名誉教授)

戦前の日本国家の骨組みを解明する超貴重文獻

この度、森松俊夫先生の監修の下で、松本一郎教授の解説付編集によって『陸軍成規類聚』資料集成「全四集が出版されることになったことは、大いに喜ばしい。明治元年に創設され、昭和二〇年の敗戦によって解散を余儀なくされた「日本陸軍」は明治、大正、昭和の三代七七年間にわたり、日本の軍備のみならず、経済、産業、国民生活の全般にわたつて、大きな影響を与えた。その「日本陸軍」の実態を法制面で支えた重要な諸規定を集成したのが、この「陸軍成規類聚」である。日本の軍制を学ぶ上で必須の資料であるだけでなく、戦前の日本国家の骨組みを解き明かす上でも、超貴重な文獻であり、従来未見の貴重な文獻も収録されている。この面での権威者である森松俊夫先生の監修で、最速任の松本一郎教授の編集による本資料集成は、信頼に値し、その的確な解説と共に、読者諸賢の期待に沿うことを信じて疑わない。



大東信祐

(元防衛研究所戦史部長)

「帝国陸軍」の軍制研究にとって貴重な資料

大東亜戦争の敗戦により帝国陸軍が解体され、その組織が消滅してから六四年の歳月が経過した。  
この間において、防衛庁が編纂した公刊戦史である戦史叢書「全一〇二巻が刊行され、夥しい量の「戦記もの」の出版があるが、これらはいずれも作戦・戦闘の正面からの観察が主体である。また、満州事変から支那事変、さらに大東亜戦争に至る間の政治、外交の問題については政治史、外交史の側面から多くの研究著作が見られる。しかしながら、明治以降の日本の歴史に大きな足跡を残した「帝国陸軍」の成長とその変化の過程についての研究は、明治期の軍制史について松下方男氏の研究以外極めて乏しいと云わざるを得ない。その不振の原因の一つとして基本的な資料の不足が上げられる。  
今回、松本先生はじめ関係者のご努力により、「陸軍成規類聚」及び関連資料が集成され出版の運びとなったことは、「帝国陸軍」の軍制研究にとって貴重な資料となるものであり、今後の研究の進展に大きな寄与をなすものと思ふ。



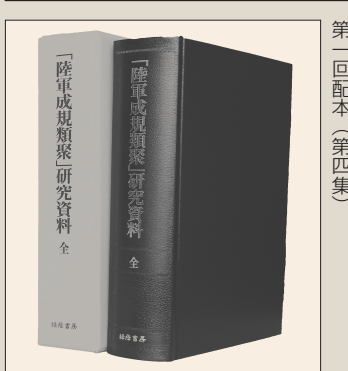
原 剛

(軍事史学会副会長)

陸軍諸法規の集大成発刊に期待する

東条英機は大尉の頃、陸軍省副官を務め、「陸軍成規類聚」を毎日丹念に読み、周囲の者から「成規類聚」と呼ばれるほど法規に精通し、このことが、軍内で彼の存在を認める切っ掛けになった。彼が熱心に読んだ成規類聚とは、陸軍大臣官房が編纂した陸軍に関する諸法令・諸規則すなわち法律・勅令・軍令・省令・訓令・達・告示・陸普・通牒」などを、関連項目ごとに類別して編冊した、陸軍の行政事務の根拠文書である。従つて、陸軍の研究特に陸軍の制度・組織などを研究するには、絶対に欠かせない必須の文獻である。これが、資料集成として刊行され、さらにその中に軍制史の大家山崎正男氏の「陸軍軍制史梗概」などが加えられ、陸軍軍制の理解を容易にしているのは、研究者にとって大変ありがたいことである。

## 「陸軍成規類聚」資料集成



▼第二回配本(第一集) 最新刊!

### 陸軍成規類聚 昭和版

陸軍大臣官房編纂／底本 昭和一九年八月第三六版

「昭和版」の特色

- ▼大正五年版を基盤とする第三六版(昭和一九年八月)を底本とし、第二〇五回追録(同年一〇月)まで加除済の最終版である。
- ▼底本とした原本は陸軍大臣官房図書閲覧室所蔵版で、戦後には「法制改廃委員」が使用したものである。
- ▼原本は全六巻であるが、本書復刻版では、第二巻を二冊として、全七巻とした。
- ▼別巻には解説のほか、第一巻登載の「索引」を収録した。また、各巻の冒頭にある目次を格集し「類別総目次」として利用者の検索の便を図つた。附録資料として昭和二〇年の重要「法令」を収録した。
- ▼本書は「昭和陸軍」の全貌(制度・組織・機構等)を解明するための基本資料である。
- 刊行概要
- 復刻版
- ▼全七巻・別巻／解説・附録資料・類別総目次・索引・イロハ索引
- ▼総七〇〇頁／A5判・上製・クロス装・ケイン入り
- ▼揃本体一八〇〇〇円 ISBN978-4-89774-286-1

▼第一回配本(第四集) 既刊!

### 「陸軍成規類聚」研究資料

収録資料

- 「陸軍軍制史梗概」山崎正男著(底本「国家総動員史・史料篇」)
- 「山崎正男氏対談記(底本・雑誌「偕行」)
- 「陸軍軍制史話(原題「軍制よもやま話」／底本・雑誌「偕行」)
- ▼全一巻／総八〇〇頁／本体一八〇〇円 ISBN978-4-89774-289-1
- ▼第三回配本(第二集) 九月刊
- ▼第四回配本(第三集) 平成三年 月刊
- ▼陸軍成規類聚 明治版
- 陸軍大臣官房編纂／明治四四年二月第六版
- ▼全6巻／総6000頁／本体60000円 ISBN978-4-89774-285-3
- ▼全3巻／総2000頁／本体20000円 ISBN978-4-89774-284-6
- ▼体裁はA5判・上製・クロス装・箱入り

◆推薦します

山本卓眞 偕行社会長 大東信祐 元防衛研究所戦史部長  
宮崎繁樹 明治大学元総長 名誉教授 原 剛 軍事史学会副会長

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋 1-13-1  
☎ 03 (3579) 5444  
[消費税が別途加算されます]

●下記の書店にお申し込みください。

## 「陸軍成規類聚」資料集成

森松俊夫(監修)／松本一郎(編・解説)

▼陸軍大臣官房編纂による日本陸軍の根幹資料

「陸軍に關係する諸法規及び関連諸資料を網羅」

## 「陸軍成規類聚」資料集成

全4集

▼第一回配本(第一集) 最新刊!

## 陸軍成規類聚 昭和版

▼全7巻・別巻／解説・附録資料・類別総目次・索引・イロハ索引

▼「陸軍成規類聚」とは、陸軍に関する諸法令・諸規則すなわち法律・勅令・軍令・省令・訓令・達・告示・陸普(通牒)などを

関連項目ごとに類別して編纂、陸軍のあらゆる活動の基準となった

根拠文書であり、巨大組織「日本陸軍」の機構を支えた法令集である。

小社では、日本陸軍の(組織・制度・人事・教育等)を研究する上で

不可欠な本史料を「昭和版」「別冊」「明治版」として公開する。

また、「陸軍成規類聚」の概説書として「研究資料」を付した。



「昭和版」の原本(第三巻)

緑蔭書房

◆監修にあたって―



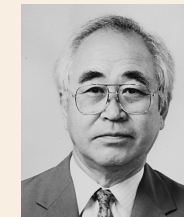
森松俊夫

(元防衛研究所戦史室編集官)

「陸軍成規類聚」とは、日本陸軍関係の法規、通達などを網羅した法令集である。年に数回発行の追録によってアップ・トゥ・デイトに編集されたこの法令集は、終戦前は各部隊の事務処理に必要不可欠のものであった。戦後は陸軍の機構・制度の研究にとって重要な存在であったが、今日ではそのほとんどが滅失して、これを参照することが難しくなっていた。先年、海軍に関する同種の法令集「海軍諸例則」が復刻、刊行されたので、本書の復刻が待望されていたところ、このたび、縁あってその監修を引き受けることになった。  
明治二三年に発行された「陸軍成規類聚」は、同四〇年と大正五年に大きく改版され、この大正五年版の様式は、最後の第三六版(昭和一九年八月発行)まで踏襲されてきた。本資料集成では、この最新版と、未公開の秘密資料「陸軍成規類聚 別冊」を収めた。これら貴重な史料の復刻は、昭和陸軍軍制の研究に寄与するところが大ではないかと秘かに自負している。

最近、靖国偕行文庫に、配布先での加除が全くなされていない明治四四年版の「陸軍成規類聚」が所蔵された。発行当時の軍制を知るには、まさに絶好の史料といえる。同文庫のご厚意により、幸いにこれも復刻することができた。  
また、本資料集成では、成規類聚研究に不可欠の資料である山崎正男先生の諸論考を第一回配本として収録した。底本の一つである「偕行」誌連載の「陸軍よもやま話」には、私も聞き手の一人として毎回欠かさず参加させて頂いた。汲めども尽きぬ蘊蓄を披露して下さいました先生の温顔が、今懐かしく甦ってくる。  
「陸軍成規類聚」は、八〇年に及ぶ日本陸軍の骨格を知ることのできる根本史料である。このたびの出版が、日本陸軍についての新たな研究の一助となれば幸いである。

◆編纂の言葉―



松本一郎

(獨協大学名誉教授)

このたび、『陸軍成規類聚』資料集成」として、「陸軍成規類聚 昭和版」「同別冊」「同明治版」「同研究資料」を刊行することになった。

昭和二〇年八月の終戦当時、日本陸軍の人員は五四七万人に達していた。当時のわが国の推計総人口は七二四万であるから、その七・六％(男性についてみれば一五％)が陸軍人だったことになる。この巨大な機構の運営を法制面で支えていたのが、陸軍に関する無数の法令・通牒類であった。そのうち主要なものを選り、適宜追録を発行して改正条項を加除できるようにしたのが、「陸軍成規類聚」である。これは陸軍の「法令全書」であり、かつ「百科全書」でもある。本書は大隊単位で揃え付けられていたから、昭和二〇年陸軍密第二一九号通牒、その発行部数は膨大な数に上つたであろう。陸軍は、停戦と同時に管下の官庁、部隊、学校などに対して軍関係の書類、資料等の焼却、廃棄を命じた。当時私は熊本陸軍幼年学校の生徒であったが、個人の日記・アルバムに至るまで焼却を命ぜられて、泣く泣くこれに従った。この命令によって、多数存在していた成規類聚のほとんどが滅失した。

私は八〇年に及ぶ陸軍の史料が年々喪われていくことを憂い、この数年来緑蔭書房と協力して成規類聚の収集に力を入れてきたが、最近「法制改廃委員」が使用した最新版を入手するという機嫌に恵まれた。この「法制改廃委員会」とは、昭和二〇年一〇月、軍の解体に伴う陸軍諸法令の改廃を検討するために陸軍省(後に第一復員省)に設けられた委員会であり、その中心人物は第一回配本の著者山崎正男陸軍少将である。したがって、本書「昭和版」(第二回配本)の底本はいわばお墨付の成規類聚ということができ、その史料価値は計り知れない。

第三回配本には、「軍事秘密」陸軍成規類聚 別冊」を収めた。これは、「昭和版」を補完するものであり、国会図書館にも収められていない貴重な史料である。この復刻によって、昭和軍制の研究に新たなページが加わるのではないかと期待している。

第四回配本には、明治後半期を代表する版として明治四四年の第六版を収録した。日露戦争後の軍制と「昭和版」への変遷を理解する上で重要な史料である。

第一回配本には陸軍軍制研究に不可欠の資料である山崎正男氏の諸論考を配した。最後に、史料の復刻にて厚意を賜った偕行社、靖国偕行文庫そして防衛省防衛研究所に対して、心からの謝意を表したい。



